

## 「文明とエネルギーシフト」

星川 淳（作家・翻訳家／屋久島環境政策研究所）

### 「エネルギー」の定義

(1)生活や産業に使う電気や動力としてのエネルギーだけでなく、(2)各種資源の形に凝縮されたエネルギーや、(3)人間の身体的・精神的エネルギー、(4)地球／自然／宇宙の営みとして具現するエネルギー（重力・地熱・気象 etc.）など、幅広くとらえたい。もちろん本論は(1)を軸とするが、あくまでも(2)～(4)が背景&基盤。

### なぜ「エネルギーシフト」なのか？

資源・エネルギー浪費型の現代文明は、巨大化しすぎて滅びた恐竜にたとえられる。今回は、温暖化に見られるように地球生命圏全体が変調をきたしたりしている点、恐竜絶滅より深刻な状況。その意味で、シフトはすでにいやおうなくはじまっていて、人類社会がそれに適応できるか、その意志があるかの問題。つまり、ポスト恐竜世界へ生きのびるための内発的な変化・変革・転換と、外的条件から迫られる変化・転換との両義。恐竜として滅びるべしとの刹那的姿勢・自殺願望（ブッシュ政権？）は、選択の自由を否定しないが、生命存続の宇宙的意志と反するので与（くみ）しない。エントロピーと定常系。先駆相社会から極相社会へ？

### 原点生活 どこへシフトするのか？

カリフォルニアの山で電気・水道・ガスのない1年間の学び。都市型文明に生まれ育ち、デファクト・スタンダードとして最初から“過剰・浪費”しか知らない病理。ニアゼロ体験という薬。ダイヤルを合わせるように、自分にとって真に適度な目盛りを選ぶ力をつける。手仕事、等身大の技術などの重要性や、固有伝統文化（たとえば日本文化）の本当の民衆的基層が何かを理解。5人家族がソーラーパネル1枚で優雅な生活を送る原風景。

### 適正技術・カエル飛び・持続可能性

科学技術の“適度な目盛り”はどこかを探り、それを実践する応用生態学。先進国型・都市型文明には抑制的にシンプルな喜びと豊かさ、第三世界・途上国には不要な失敗や破綻の轍（わだち）をスキップさせるカエル飛び（leap-frogging）。言葉のもっとも厳密な意味で「持続可能」なのは、リアルタイムの太陽光インプットと地熱とバイオマスで成り立つ社会。そこへの再接近を、過去への逆戻りとしてするか（江戸など）、近未来型のスパイラルアップとして実現するか 実際にはいいとこ取りの組み合わせ？

### 身近な循環、エネルギーリテラシー、ファクター4

具体的なエネルギーシフト実践の手がかりをいくつか。水、食料、電気、その他の生活基盤を、なるべく身近なところで完結・循環させること（便利・安心）。“造りつけられた浪費”を見破り、拒否・変更すること（たとえば温熱便座）。エネルギー&資源利用の効率化競争。

### 三つの系

地球生命圏(バイオスフィア = 36億年)と人工技術圏(テクノスフィア = 100万年)はそれぞれ固有の知恵を積み重ねた完成度を持つが、それらの衝突・乖離が環境問題として表出するとき、解決に当たるべき人間社会圏(ソシオスフィア = 数百~数千年)の集合的な意思決定システムが、前者2つに比べてあまりに未熟。衆知を集めて最善の策を実行するどころか、集団になると個人レベルよりお粗末な最悪の選択をすることも。ソシオスフィアの飛躍的改善(市民・住民・国民参加の民主的合意形成と意思決定)が急務。

### モデル

望ましいエネルギーシフトを、目で見、手で触れ、体で体験できるようなわかりやすいモデル(展示施設・住宅・宿・コミュニティなど)創出が必要。モデルがあると、エネルギーシフトを妨げている恐怖や不安を「(シフトは)できる・楽しい・快適」といった実感で解消したり、既存システムや既得権益による利益追求を「(シフトしたほうが)安い・儲かる」といった対抗価値で逆転する可能性拡大。

「文明」とは(その他)

Civilは City(都市)のもの。そうでない文明はありうるか。残さない文化・文明。先住民文化、狩猟採集文化からも学ぶ。有効なバックキャストिंगをするためには、望ましい到達点の定め方において、現状把握の正確さや“着地度”と、未来予測の高度な洗練・成熟が不可欠。

### [ 参考 ]

- 『全生命のためのテクノロジー』 G・コー他(めるくまーる)
- 『地球生命圏』『ガイアの時代』 ジェームズ・ラヴロック(工作舎)
- 『ソーラー地球経済』 ヘルマン・シェーア(岩波書店)
- 『ファクター4』 E・ワイツゼッカー他(省エネルギーセンター)
- 『エネルギーと私たちの社会』 イアン・ノルゴー(新評論)
- 『北欧のエネルギーデモクラシー』 飯田哲也(新評論)
- 『環境破壊のメカニズム』 田中 優(北斗出版)
- 『E C O・エコ省エネゲーム』 足温ネット編(合同出版)
- 『オールウェイズ・カミングホーム 上・下』 アーシュラ・ル＝グイン(平凡社)
- 『スピリチュアル・ウォーカー』 ハンク・ウェスルマン(早川書房)
- 『ファシリテーション革命』 中野民夫(岩波アクティブ新書)
- 『地球生活』 星川 淳(平凡社ライブラリー)
- 『屋久島水讃歌』 星川 淳(南日本新聞社)
- 『環太平洋インターネット紀行』 星川 淳(N T T出版)

枝廣淳子の Enviro-News : <http://www.ne.jp/asahi/home/enviro/news/>

星川 淳

stariver@ruby.ocn.ne.jp

屋久島発インターネットソース : <http://innernetsource.hp.infoseek.co.jp/>